

公金内
三猿文庫
中

平市公報

第十一號

昭和十四年二月十五日

建國祭式典

本市に於ける建國祭は二月十一日午前十時二十分平第一小學校々庭に於て舉行、男女中等學校、青年學校、各小學校、私立各學校の兒童生徒を始め各種團休員、各官公衛、一般市民參加別記式次第に依り先國旗掲揚、君ヶ代合唱、宮城遙拜、一分間の黙禱を行ひ、山崎聯合青年團長の式辭、青沼市長の宣誓文朗讀あり、紀元節歌を合唱、萬歳奉唱、參加各學校、各團休は四班に分れ市内所定の順路に依り愛國行進を起し市役所前に於て萬歳を三唱盛會裡に解散したり

尙各代表者は縣社子歛倉神社、縣社飯野八幡神社に參拜、皇威宣揚祈願祭を執行したり

建國祭式次第其の他左の如し

- 建國祭式典次第
- 一、開式の辭 喇叭(氣ヲ付)

- 二、國旗掲揚 第一小學校長
喇叭「君ヶ代」吹奏(一回)注目敬禮
- 三、國歌齊唱 (二回) 樂器伴奏
- 四、宮城遙拜 最敬禮
- 五、默禱
- 六、式辭朗讀 聯合青年團長(別紙)
- 七、宣誓文朗讀 司會者(市長)(別紙)
- 八、紀元節唱歌合唱 (第一、二章) 樂器伴奏
- 九、司會者發聲の下に
天皇陛下萬歳奉唱
- 一〇、國旗降下 喇叭 注目敬禮
- 一一、閉式の辭 喇叭(休め)
- 一二、各代表縣社子歛倉神社、飯野八幡神社參拜
皇威宣揚祈願祭修祓、祈願文奏上(司會者)玉串奉奠
- 一三、市内行進

第一班 樂隊、少年團、青年團、第一小學校、佑賢學舎、女子青年

團、平婦人會、愛國婦人會、國防婦人會、磐城高等女學校

第二班 第一青年學校、商業學校、第二小學校、藤田女學校、磐城

看護婦學校、市役所、平消防組

第三班 磐城中學校、磐城青年學校、平陽女學校、片倉女子青年學

校、家政學園、平看護婦學校、軍人分會、軍友會、傷痍軍

人會、第三小學校

第四班 第二青年學校、第四(分教場共)小學校、青年團(上、中、

下平、中廳、大室)國防婦人會(第四、第五)、愛國婦人會

(全上)、軍人分會(全上)

行進順路 先頭第四班——二——三

第一小學校——縣社子鐵倉神社前——紺屋町——本町

新川町、大町、搔樋小路 (第一班)

新川町、南町、二丁目横丁 (第二班)

大工町、大工町、仲間町 (第三班)

(第四班)——第四小學校前解散

十二時解散

式 辭

茲ニ皇紀二千五百九十九年紀元節ノ佳辰ヲ迎ヘ日本全國津々浦々ニ至ルマ
デ建國祭ノ式典ヲ舉行シ遠ク我建國ノ鴻業ヲ成シ給ヘル

神武天皇ノ御聖德ヲ讚仰シ奉リ我等一億ノ國民ガ熱烈ナル盡忠報國ノ赤誠
ヲ披瀝シテ國民ノ總力ヲ舉ゲテ與亞ノ大業ヲ翼賛シ奉ランコトヲ期スルハ
最モ意義深ク感激ノ新タナルヲ覺ユルノデアリマス

畏クモ 神武天皇其御詔勅ニ「兼六合以開都蓋八紘而爲宇」ト仰セ給ヘル
建國ノ古ヘヨリ此方皇統連綿トシテ悠久實ニ二千六百年ニ垂ントシテ今ヤ
帝國ノ興廢ヲ懸ケテ支那專變ニ集中シ世界列強ノ壓迫モ牽制モ斷乎排除シ
テ一路新東亞ノ建設ニ突進シ 我皇威漸ク亞細亞大陸ノ山河ヲ照ラシ舉國
ノ皇謨着々トシテ實現セラレツ、アルヲ我等ノ此時代ニ於テ自ノ邊リ見ル
コトヲ得ルハ實ニ千載一遇ノ秋ト云ハザルヲ得ズ

此秋此際我等忠良ノ臣民トシテ凡ユル犧牲ヲ忍ビ前線ニ奮闘セル皇軍將士
ト相呼應シ 各々其職分ニ從ヒ銃後ニ於ケル減私奉公ノ本分ヲ盡シ前途ノ
萬難ヲ排シテ實踐竊行以テ上 聖明ニ應ヘ奉ルコトハ余リニモ當然ノ責務
ト云フベキデアリマス サレバ我平市ニ於ケル建國祭ハ單ナル式典ニ終ラ
シムルコトナク參列者各位ガ建國精神ニ還ラントスル愛國ノコノ熱誠ヲ以
テ上 聖壽ノ萬歳ヲ壽ギ奉ルト共ニ遙カニ出征將士ノ勇健ト護國英靈ノ冥

福ヲ祈リ衷心ヨリ大日本帝國ノ彌榮ヲ祈念スルハ勿論式後更ニ愛國大行進
ヲ起シテ三萬市民各位ト相共ニ萬民扶翼ノ實行ニ邁進センコトヲ堅ク強ク
誓ハムトスル次第デアリマス 之ヲ以テ式辭ト致シマス

紀元二千五百九十九年二月十一日
平市聯合青年團長 山崎忠兵衛

宣 誓

曩に政府は今次支那事變に對する帝國不動の根本方針を中外に聲明し併せて國民の嚮ふべき途を示せり
今や時局は長期建設の段階に入り益々重大性を加へ銃後國民の責務愈々重加せるを痛感す

吾等は茲に一層時局の認識を深め向後如何に進展し難更に加はるとも舉市一體日本精神を發揚して其の本分を全ふし飽くまで堅忍持久盡忠報國の赤誠を捧げて銃後の護りを固め以て

皇國未曾有の國難を打開し所期の目的達成に邁進せんことを誓ふ

皇紀二千五百九十九年建國祭

平市司會者平市長 從五位 勳五等 青 沼 銈 太 郎

祈 願 文

昭和十四年建國祭平市司會者平市長從五位勳五等青沼銈太郎 謹み敬ひ畏み畏みて縣社子歛倉神社、縣社飯野八幡神社の大前に白す

大日本帝國は古來皇祖建國の大義に則り億兆一心偏に國統を護りて宇内萬邦に範示し來れり

而して日、滿、支三國相提携し東洋平和の基礎を確立し進むて世界人類の

福祉を確保せんとするは是れ 皇國不動の國是にして我が建國大精神の發露に外ならず 帝國と一體同心の理念に燃へて成立せる我が締盟滿洲國の基礎愈々固く帝國の威信益々中外に伸張し來れるの秋暴戾なる支那國民政府は神聖にして宏遠なる帝國の國是を解せず徒らに事を構へて不信不法を敢てし遂に帝國をして斷乎膺懲の軍を進めしむ忠勇無比なる皇軍は陸に海に空に連戰連捷聖戰茲に一年八月支那全土を席捲して 皇威を中外に宣揚し大陸長期建設の段階に入り支那に於ても親日防共の新政府成立し明德

新法の施政其の緒に就かんとする秋に際し彼れ蔣介石は毫も自覺反省すること無く 或は第三國の援助に頼り 或は共產黨と結びて徒らに長期抗戰を策し時局の前途益々重大なる情勢に鑑み誠に恐懼深憂に堪へず

冀くは神明厚く加護を垂れ給ひ一億の同胞齊しく 皇祖皇宗の遺訓に遵ひ今上陛下聖諭を奉體し内に諸惡一切を根絶して銃後の護りを固めしめ外に赫々たる皇軍の武勳を奏せしめ以て國難を打ち開き益々皇威を中外に宣揚して建國宏遠の大理想を顯現せしめ給はんことを祈願し奉る

皇紀二千五百九十九年二月十一日

日本精神發揚週間實施

事變勃發第三年の紀元節を迎ふるに當り國民精神總動員の實施として標記週間を設定し左記要項に依り實施することとし市内一般へ周知徹底を圖り

其の實績を擧ぐるに努めたり

記

一、趣 旨

事變勃發第三年の紀元節を迎ふるに當り日本精神發揚週間を設定し神武天皇の御創業を偲ひ奉り八紘一字の精神顯揚を中核として我が尊嚴なる國體、宏遠なる肇國の理想、日本文化の發揚に努め以て東亞新秩序の建設に邁進すべき國民の覺悟を固からしめんとす

二、期 間

自二月五日、至二月十一日 一週間

三、實施方法

1、紀元節奉祝

イ、官廳、學校等に於て奉拜式又は祝賀式を行ふに當りては特に本文趣旨の徹底を圖ること

ロ、當日午前九時を期し「國民奉祝の時間」を設定せられたるを以て市民多數最寄小學校の式典に參列奉祝せらるゝこと、前記の式典に列せざるものは各家庭其の他の場所に於て夫々宮城遙拜を行ふこと、右時刻は鐘サイレンを以て周知す

午前十時二十分より建國祭を平第一小學校々庭に舉行之が細案は別に通知す

2、本週間を通し強調實施事項

イ、各學校、官衙團體、會社、銀行、工場等に於ては八紘一字の精神を闡明日本文化の發揚東亞新秩序の建設等に關する講演會座談會を開催すること

ロ、敬神崇祖の美風作興を圖り就中家庭に於ける之が行事實踐の徹底に努むること

ハ、客年十一月三日政府聲明竝に十二月二十二日內閣總理大臣談の趣旨を周知徹底せしむること

ニ、剛健なる精神を涵養するため集團的勤勞奉仕作業、團體行進、武道大會等を実施すること

告 示

告示第二七號

昭和十三年度平市歳入歳出更正豫算ノ要領左ノ如シ

昭和十三年十二月二十七日

平市長 青 沼 鋒 太 郎

記

昭和十三年度歳入歳出更正豫算

歳入

一金六拾壹萬貳千九百拾八圓

更正豫算高

一金六拾壹萬七百參拾八圓

既定豫算高

歳出

一金貳拾九萬八千參百四拾七圓

經常部更正豫算高

一金貳拾九萬六千六百拾七圓

同 既定豫算高

一金ナシ

臨時部更正豫算高

一金參拾壹萬四千五百七拾壹圓

同 既定豫算高

合計金六拾壹萬貳千九百拾八圓

歳入出差引殘金ナシ

(豫算表略)

告示第一號

昭和十三年度平市歳入歳出追加更正豫算ノ要領左ノ如シ

昭和十四年二月一日

平市長 青沼 銖太郎

記

昭和十三年度平市歳入歳出追加更正豫算

歳入

一金六拾壹萬六千參百八拾六圓

更正豫算高

一金六拾壹萬貳千九百拾八圓

既定豫算高

歳出

一金貳拾九萬六千七百拾五圓

經常部更正豫算高

一金貳拾九萬八千參百四拾七圓

同 既定豫算高

一金參拾壹萬九千六百七拾壹圓

臨時部更正豫算高

一金參拾壹萬四千五百七拾壹圓

同 既定豫算高

合計金六拾壹萬六千參百八拾六圓

歳入出差引殘金ナシ

(豫算表略)

一月中文書收受發送數

社	戶	兵	産	學	庶	會	籍	事	業	務	務	收 受	發 送	計
												五五六	五二〇	一、〇七六
												一四九	一六七	三二六
												二二八	三〇一	四二九
												二一九	七三七	九五六
												四六一	四八〇	九四一
												一五四	四一三	五六七

財務	五二	一一	一六三
合計	二、〇二二	二、八五一	四、八七二

戸籍寄留件數

(一月分)

出生	七〇	三四	一〇四
死亡	三九	二四	六三
離婚	三九	二	四一
其他	三三	一	三三
計	一〇九	六〇	二五〇
戸籍謄抄本		二八三件	
關覽		一九件	
證明		七件	
計		四〇九件	
住所寄留		一一九件	
出寄留		三四件	
計		一五三件	
寄留謄抄本		一四件	

一月中公會堂使用狀況

一月中に於ける公會堂使用狀況左の如し(別館日本間は一月一日より使用許可せり)

一、使用回数	一九回
內有料	九回
無料	八回
市役所使用	二回
料	金 一〇八、五〇

市會

昭和十三年十二月二十六日市會開會附議事件左ノ如シ

- 一、寄附採納ノ件
- 一、昭和十三年度平市歳入歳出更正豫算ノ件
- 一、行政訴訟参加ニ關スル件
- 一、公會堂電燈契約ニ關スル件
- 一、電話加入權讓渡ニ關スル件
- 一、教員及指導員慰勞金給與ノ件

市 參 事 會

昭和十四年一月二十一日市參事會開會附議事件左ノ如シ

一、寄附採納ノ件 (二件)

一、昭和十三年度平市歳入歳出追加更正豫算ノ件

一、小學校基本財産(田)貸付ノ件

一、退職區長表彰ノ件

一、區長推薦ノ件

一、専決處分報告ノ件

昭和十四年一月二十八日市參事會開會附議事件左ノ如シ

一、市有地交換ニ關スル件

一、區長推薦ノ件

一、區長代理者推薦ノ件

昭和十四年一月三十一日市參事會開會附議事件左ノ如シ

一、寄附採納ノ件

一、昭和十三年度平市歳入歳出追加更正豫算ノ件

委 員 會

一月十二日 水道委員會

〃 二十日 學務委員會

〃 二十四日

〃 三十一日

二月 四日

〃 六日

〃 〃

〃 七日

〃 八日

〃 九日

〃 十日

公會堂委員會

電柱移轉委員會

商業學校委員會

水道委員會

土木委員會

土木委員會

學務委員會

警備委員會

傳染病豫防委員會

辭 令

昭和十四年一月十四日

古 川 唯 一

雇ヲ命ス 月俸四拾圓給與

昭和十四年一月二十二日

書記補 清 野 勝 利

依願解職

昭和十四年二月九日

書記補 佐 久 間 六 良

依願解職

廳中記事

- 一月十三日 兩角部隊長午後〇時四三分着市公會堂に於て郡内出征戦死陣歿者に對する慰靈祭、遺家族慰問、終て會堂に於て講演會あり入場者三千名に上れり
- 一月十三日 慰問袋募集に關し協議會あり
- 一月十六日 公會堂に於て海軍志願兵検査執行
- 一月十七日 定期慰問をなす
- 一月廿六日 方面委員會
- 一月卅一日 五町目派出所上棟式舉行
- 二月十日 方面委員會舊歲末給與に關する協議をなす
- 二月十一日 建國祭舉行 (記事参照)
- 二月十二日 四ツ波藤ヶ岡溜池新設地鎮祭執行

昭和十四年二月十五日

發行人兼
發行所
平 市 役 所

印刷者
川 崎 文 治
福島縣平市長橋町三五番地

印刷所
常磐毎日印刷株式會社
福島縣平市長橋町三五番地
電話 六三〇番